

日本国際政治学会 2008 年度研究大会 10月26日(日) 13:00~14:00

若手研究者・院生研究会コーカス「これからの海外発信と地域・院生交流の活性化を考える」の概要

去る10月26日(日曜日)、日本国際政治学会2008年度研究大会において、本学会における初の試みとして「若手研究者・院生研究会コーカス」が開催されました。ランチ・ミーティング形式で催されたコーカスには、初回の不手際から開始が遅れるなどの問題がありましたが、最終的には110人収容の会場を埋め尽くすほどの人数の若手研究者、大学院生、および若手の動向を見守って下さる先生方がお集まり下さり、盛況のうちに無事終了致しましたので、御報告致します。

コーカスでは、院生研究会の各地区責任者が交互に進行役を務めつつ開催趣旨(ニュース・レターNo.117参照)の説明を行ったのち、院生研究会代表経験者である細谷雄一・野崎孝弘の両先生、ならびに開催校から南山淳先生にお話をいただきました。そのなかでこれまでの活動から若手研究者の研究活動や交流を促進するためのアドバイスや方法などのご提案を賜りました。これらを端緒に、今後の各地域院生研の具体的な計画案やコーカスのあり方などについて話し合いがもたれ、大変充実した内容となりました。

初めての試みということもあり、また次のセッションとの都合上から、参加者間での意見交換が全体での話し合いの後にとられた交流時間でなされたことは今後の課題となる一方で、そこでの活発な議論や、あるいは参加者数に示されるように、本コーカスと今後の院生研究会に対する期待の高さが、一様に共有されることとなりました。院生研究会としては小さな一歩ですが、これまで若手の研究員や院生・非常勤らによる学会内会合というのは日本の主な学会の歴史上では初めての試みであり、今後の日本の学会自体の活性化にとっては大きな一歩です。

【当日の概要、フォローアップ、お知らせ】

1. 院生研究会のこれまでの活動

院生研究会の代表経験者である細谷雄一からは基調スピーチを、同じく野崎孝弘先生からは東京地区院生研究会の歴史についてのご説明を、また、開催校を代表して南山淳先生からは、ここ20年の国際政治学会の変化について、それぞれの今後のコーカスの指針となる内容のお話をいただきました。

2. これからの院生研究会の活動 若手研究者の交流および海外発信の活性化へ向けて

海外発信の契機が具体的に動き出し、英国国際関係研究学会(BISA)との共同パネルの設置の検討が開始されました。このほか、米国を中心として政策プログラムのセミナーなどを開催している日本アспен研究所などのシンクタンクとの協働の可能性の模索や、各省庁やNGOの間でも若手ならではのアイデアを提供してゆくことで政策連携も視野に入れてゆきます。同時に、多様な競争資金の獲得方法(フェローシップ等の応募方法)に関する情報の共有や、また査読誌への投稿方法や論文等の作成法、国際関係論の方法論についての知識・情報共有の機会を増やし、活性化の土台を拡充してゆきます。くわえて、近年増加しつつある大学間・学会内セクハラ・パワハラから、若手・院生の研究生生活を守るべく、相談窓口を設けます。

3. 各地域における活動の抱負

九州：研究例会を年2~3回、共通テーマの研究大会を年1回開催することを定式化してゆきます。また、他の研究会などとも連携し、来年6月には、テーマ「グローバル秩序」というシンポジウムを共催する予定。将来的には地理的条件を活かした東アジアなどの大学と共同カンファレンスの開催などを目指してゆきます。

関西：「冷戦後の20年と国際関係論」をテーマとした研究会企画をはじめ、社会科学の古典の輪読会、他の地域・分野との交流を目的とした定期的な研究・報告会の開催を目指してゆきます。

東京：引き続き定期的な研究会の開催しつつ、若手の活動の場を広げるべく海外の大学・研究者との共同研究会・シンポジウムの企画を具体化してゆきます。一例として、大学における国際関係論の教授法セミナーの開催とワークシェアを導入します。

4. 今後のコーカスのあり方について

各地区・各地域間の研究会の交流の活性化を大目標とし、そのためにも、今大会を契機にメーリング・リストの作成とその活用を通じた情報交換を積極的に行います。また、院生研究会に、新たな地区を自発的に増やしてゆく方向性が確認され、これまでの東京への一局集中を漸進的に解消させることで会員間の相互の交流を通じた研究の活性化を図るべく、今後も（たとえば北海道、東北、中部地区...などにおいて）ご協力いただける若手研究者・大学院生のみなさまのご協力を仰ぎたく存じます。ご関心がおありの方、先生のみなさまの自薦他薦は問いません。院生研究会代表メールアドレスまでご一報頂けましたら幸いです。

5. 配布資料（当日配布されたものは三点。）

「実戦に勝つ文系論文の作成術 査読誌論文から学位論文まで」

サイモンフレーザー大学の川崎剛先生より、論文作成術をまとめた同資料について、希望者への提供のお申し出がございました。

「競争的資金獲得のための覚え書き」（申請書作成に関するアドバイス）

BISAの若手研究者代表からのレター

6. お知らせ

学会HPに地域・院生研究会の項目を設置して頂きました。「各種委員会より」からお入りください。

院生研究会メーリング・リストへの参加をご希望される方、あるいはその他ご不明な点や各種のご照会なども下記のメールアドレスにて受け付けております。どうぞお気軽にお問い合わせ下さいませ。

院生研究会・メールアドレス（代表）：jair.inseiken@gmail.com

2009年度研究大会でも引き続きコーカスは開催しております。また、今後の研究大会での常設化も予定しております。

諸先生方におかれましては、これまでと同様、今後とも何卒院生研究会へのご指導ならびにご高配のほど賜りたく、お願い申し上げます。